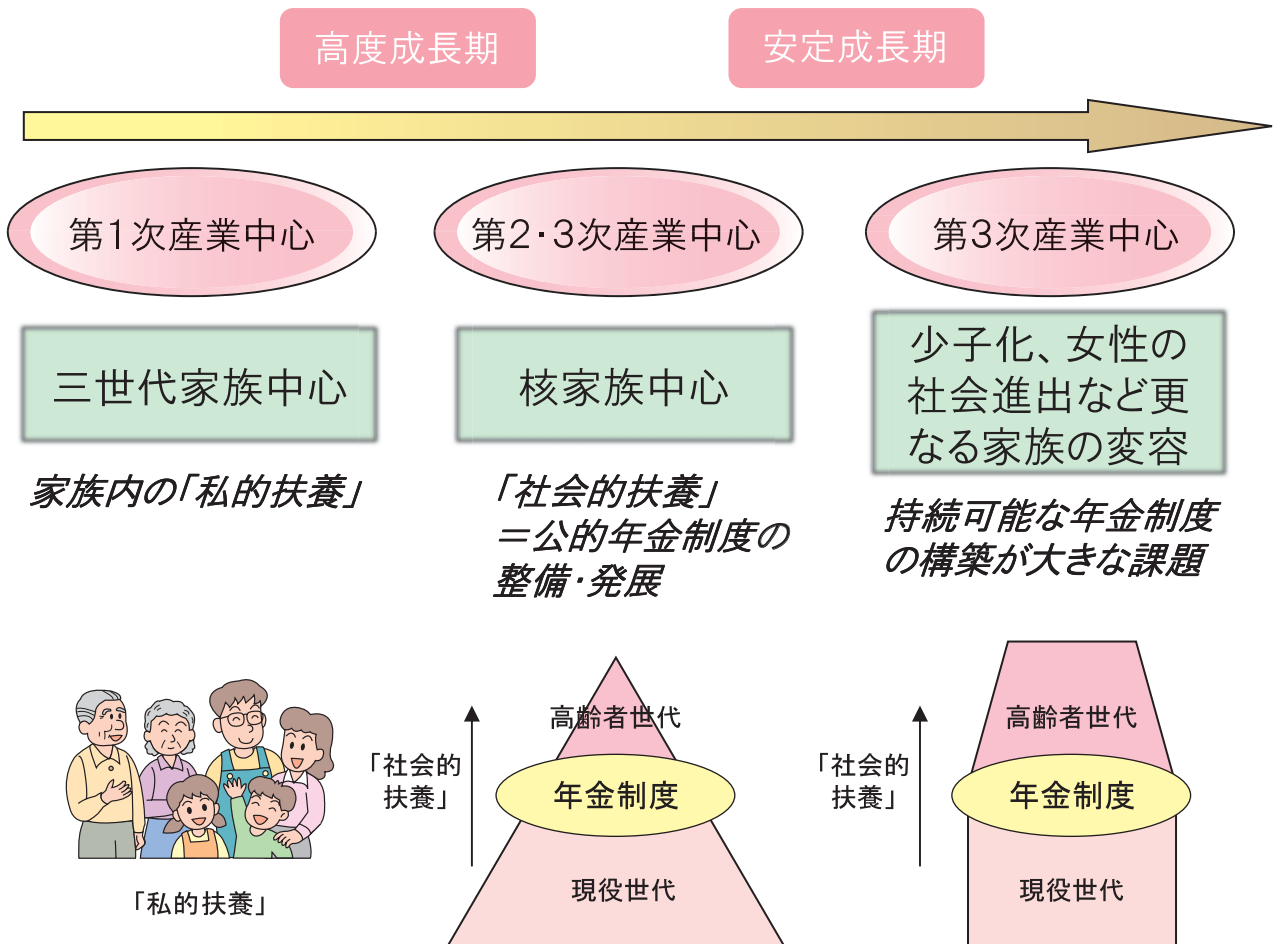


年金の意義

産業構造が変化し、都市化、核家族化が進行してきたわが国では、従来のように家族内の「私的扶養」により高齢となった親の生活を支えることは困難となり、社会全体で高齢者を支える「社会的扶養」が必要不可欠です。公的年金制度は、こうした「社会的扶養」を基本とした仕組みです。



少子高齢化が進行する中で、若い世代には高齢世代に比べて「損」をしているかのように「世代間」の不公平を主張する声、「自分たちにとっては年金制度は頼りにならない」との声もあるかもしれません。

しかし、もし、年金制度がなかったらどうなるでしょうか。

若い世代は、自分たちの老後の心配をする以前に、仕送りなどによって高齢となった親を支えなければなりません。親の経済的な心配をしながら安心して暮らすことは難しいでしょうし、以前のような「私的扶養」の時代に戻ることは困難でしょう。

それを考えれば、年金制度は、給付を受ける高齢者だけではなく、若い世代にとっても不可欠なものとなっているのではないのでしょうか。